

志政が  
市政を  
変える。

志政報告 NO.6 発行:西宮市議会議員 川村よしと

西宮市議会議員 **川村よしと** 28歳



政治家の、  
ウソの見抜き方、お伝えします。

気になる方は、今すぐ裏面へ!!

政治家なんて、みんなウソつきだと思っていました。

そんな政治を何とかしたくて、ボクは会社を辞めて選挙に出ました。  
25歳の時でした。

落選して、通帳に800円しかなくなりました。  
日雇いのバイトをして、食いつなぎました。  
そして、何とか再起したボクを、  
友人の弟を中心に集まった11人の学生たちが、市議会議員にしてくれました。  
26歳の時でした。

若ければいいなんて、思っていません。

「若さ」とは、志を行動に変える情熱のことだと、  
ボクは思います。

その情熱のある若い政治家は、  
自分の掲げた約束を守るために、必死で闘っています。  
年齢も、所属するチーム(会派)も、関係ありません。

逆に、情熱のない政治家は、  
選挙の時だけ、守るつもりのない約束をします。

今回は、政治家のウソの見抜き方を、  
ボクなりの視点でお伝えしようと思います。  
サラッと読めるので、3分だけお付き合い下さい。

それでは西宮志政、ご報告致します!



川村よしと

1984年7月22日生まれ(28歳)  
趣味・特技はバスケットボール、  
剣道(県大会優勝、全国大会出場)  
関西学院大学経済学部卒業。  
浜学園国語科講師、  
(株)リンクアンドモチベーション  
を経て、2011年4月、西宮市議  
会議員選挙で初当選(1期目)。  
議会内会派「政新会」所属。

Mail:kawamura@shisei-k.jp

住所:西宮市段上町

4丁目6番11-203号

川村よしと

検索

twitter やってます!!  
@kawamurayoshito



# 政治家のウソの見抜き方、いろいろあるとは思いますが、今回は、みんなが気になる「お金の話」にしようと思います(笑)

市長や議員の「約束」から、一緒に考えてみましょう!

**Q.西宮市の政治家は、お金について、どんな約束をしているの?**

**A.例えば、今の市長は選挙の時に、(下のグラフ⑧の)「本当に自由に使えるお金」を増やします!という政策を看板にしていました。**

皆さんは、今月の自分のおこづかいを、何に使いましたか?

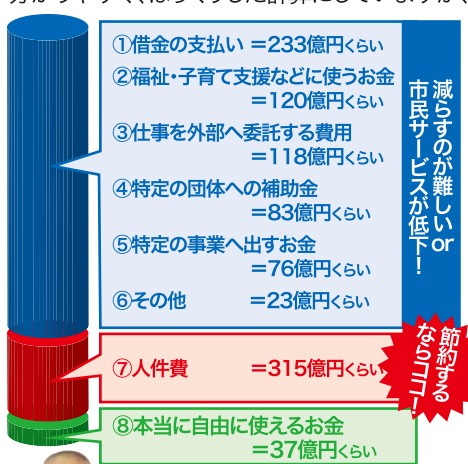
大好きなタイガースの応援に行った方、洋服やメイクなど、自分のオシャレのために使った方、奥さんのオシャレのために、お金を取られてしまった方(笑)、その使い方は人それぞれです。

このような「本当に自由に使えるお金」は、毎月のお給料から、家賃や光熱費、保険やクルマのローンなど、月々決まって出ていくお金を差し引いて、残った分になりますよね? もちろん「カードの支払いが多くて、今月は厳しいなあ。」という方もいらっしゃると思います。

西宮市は、この「今月は厳しいなあ。」という状態が、阪神・淡路大震災の直後から15年以上続いてきました。

簡単にお話すると、西宮市には、自由に使えるはずのお金が、毎年1000億円くらいあります。

ところが、これに対して、毎年決まって出ていくお金も、1000億円くらいあるんです。ちょっと下のグラフをご覧ください。



**西宮市の財政は、常にギリギリです!**

※H22年度(2010年度)決算から算出。

自由に使えるはずの1000億円のほとんどが、①~⑦の固定で出ていくお金になっています。これでは、新しいことには、お金がほとんど使えません。西宮市のために必要な政策も、お金がなければ実行できないので、市長は選挙の時に「本当に自由に使えるお金」を増やします!...と、仰っていたのでしょう。

具体的には、減らす金額の目安として、「自由に使えるはずのお金から、ほぼ100%固定で出ていくお金を、80%くらいに抑えます!」という約束(マニフェスト)を掲げていました。これは、約200億円も節約するということになります。1%が約10億円ですからね。

一般的に、固定で出ていくお金は、70%~80%が望ましいと言われていていますから、この市長の約束は、必ず実現すべきものだと思いますし、市議会議員としても、この改革には全力で取り組みたいと考えています。

一方で、これは本当に覚悟がなければ、できない約束だとも思います。だって、家賃と光熱費、保険や車のローンなど、必ず出ていくお金で給料の全額を使ってしまうのが、今の西宮市です。

お金の使い方を根本的に変えない限り、約200億円なんて大金、節約できそうにありません。

**Q.この約束を守るために、市長や議員はどうすべきなの?**

**A.まず取り組むべきなのは、左のグラフの⑦「人件費」を減らすことです。**

それでは、決まって出ていくお金のうち、どこを節約すれば、市長は約束を守ることができるのでしょうか?

また「行政改革・財政改革」を訴えている議員(=ボク)も、当然これについては、議論を続けなくてははいけませんよね。

一緒に考えてみましょう。

①借金の支払いは、そう簡単に後回しにできないでしょう。借りているお金ですからね…。ホントは削りたいのですが、今すぐには厳しい感じがします。

②福祉・子育てで支援などに使うお金はどうですか? コレ、減らすと困る人がたくさん出てくると思います。「自由に使うお金を増やすために、子育てで支援を減らします!」...って、さすがにムリでしょう。

③~⑥も、削減すると市民サービスの低下に繋がってしまいます。こう考えると、市長が約束を守るには⑦人件費を節約するしかなくなります。ここでは、全体の約30%と、いちばん多くお金を使っているわけですから、何かしらの節約方法がありそうです。

**Q.人件費を節約するには、どうしたらいいの?**

**A.例えば、市役所にいるネクタイの方と、調理員さんなどの給与が、同じ基準で決められています。仕事内容に応じて金額を変えるべきです。**

西宮市の公務員の給与制度を見ると、改善できそうなところはたくさんあります。その中で、最も重要なのが、「仕事内容に応じて、給与表を分ける」ということです。

公務員の職種は、市役所のネクタイの方(=行政職)と、調理員、運転手、清掃員といった方(=技能労務職)のふたつがあります。職種が違うのですから、当然、給与の基準も変わるはずなのですが、なぜか、西宮の場合は同じ給与表を使っています。国家公務員は、職種によって給与表が分けられていますから、地方公務員も同じようにすることに、問題はないでしょう。

他にも「年功序列で給与が上がる」「〇〇手当が多過ぎる」というように、改善すべき点はたくさんありますが、給与制度改革の本丸は「仕事内容に応じて、給与表を分ける」という点だと、ボクは考えています。

法律でも「職務と責任に応じて」「民間企業と格差がないように」という形で示されていますからね。

この点において、皆さんは下の表をどう思いますか?



公務員の給与制度について、「H23年度(2011年度)中に、抜本的な見直しをする。」と、市は議会の中で約束していました。ところが実際は、年間2億円しか削減できないという、約束とは程遠い内容でした。

315億円のうちの2億円は「抜本的」ではないでしょう(笑)

このままでは、自由に使えるお金は、増えそうにありません。

**このチラシで、ボクが皆さんに伝えたいことは…。**

ボクは、よくある公務員批判のように、ヒステリックに「給与削減」を叫ぶのは、ちょっと的外れかなと思っています。

西宮市の職員の方は優秀だと思いますし、仕事も、決して楽じゃないはずですよ。公務員の方って、いつの時代も叩かれやすい立場にいて、ちょっと気の毒だなあと感じることもあります。

ボクがここで伝えたいのは、「本当に自由に使えるお金」を増やします!...という約束を守るために、フツーに考えたら、公務員の給与制度の中で不自然なところを、変えなくてはならないということです。

市長は、ここに手を付けなければ約束を守れません。

議員は、財政改革を主張するなら、公務員の給与制度について、追及することをサポートはいけません。市民の皆さんに、正しい情報を伝えることも大切です。

このように、約束したことと実際の行動を比べることで、政治家のウソは見抜けます。

皆さんの選んだ政治家はどうですか? 時間がある時に、ちょっとだけでも、その人の活動に目を向けてみましょう。きっと、本音が見えてくると思いますよ。

「嘘つきの名人でないならば、  
真実を語るのが常に最良策だ。」  
~ジェローム・K・ジェローム~